

2015年6月21日 野外礼拝メッセージ

聖書：ルカの福音書9章28～36節

説教：山に登るイエス

1 モーセとエリヤ 二人の共通点

今日は一年に一度の野外礼拝で、旭山記念公園に来ております。ここからは札幌市街を見渡すことができ、すがすがしい気分になります。

今日開いている聖書の箇所、イエスは三人の弟子を連れて高い山に登っております。たまに気分を変えて山に登ったのだろーかと思うかもしれませんが、イエスにはピクニックをしている暇がありません。山に登ることに大切な意味があるからやっているのです。では、どんな意味があったのか、これから見て参ります。

手がかりは、山の上に現れたふたりの人物モーセとエリヤにあります。イエスの時代から見るなら、モーセはおよそ1500年前の人、エリヤはおよそ900年前の人です。どうしてそんな昔の人がここに登場するのか不思議に感じますが、調べてみると、ふたりには共通点がありました。

モーセがイスラエルの民を率いて荒野の旅に出てまもなく、ホレブの山の麓にキャンプを張ったときのことで、主がモーセを呼び寄せたので、彼は山に登りました。そのとき、有名なモーセの十戒が告げられていきます。このようにしてモーセはホレブの山に登っています。

ではエリヤはどうか。エリヤは、バアルの預言者と激しい戦いを強いられ、戦いには勝ったはいいいのですが、疲れ果てて燃え尽きてしまったことがありました。そのとき、主はエリヤをあるところに連れて行き、休息を

とらせたということが第一列王記に出て来ます。あるところとはどこか。ホレブの山です。こうして見ると、モーセもエリヤもホレブの山という共通点があったことがわかります。

2 三人が山の上で話し合う

その山の上で、三人はなにを話し合ったのか。そのことは、31節にこうあります。「栄光のうちに現れて、イエスがエルサレムで遂げようとしておられるご最期についていっしょに話していたのである。」

山の上で三人が話し合っていたのは、十字架のことでした。楽しい話題ではありません。非常に深刻な話題です。けれども、そばにいたペテロにはそんなことはわかりません。ひとりだけ有頂天になっています。彼が訳のわからないことを口走っている間に雲がわき起こってきて、雲の中から声がしてきました。「これはわたしの愛する子、わたしの選んだ者である。彼の言うことを聞きなさい。」

これが山の上で起きた出来事のいっさいです。

3 山の上にあったもの

どうしてイエスはわざわざ山に登り、モーセとエリヤといっしょに十字架の話をするのでしょうか。モーセとエリヤには「山」という共通点がありましたが、実はもう一つ共通点があるのです。

まずモーセです。モーセがホレブの山に登っていた間にイスラエルの民は何をした

か。あまりにもモーセが山から降りてこない
ので、人々はこれはてつきり死んでしまっ
たと思ひ込み、金の子牛を造って拝み、盛大な
祭りを始めました。神はこれを見て怒り、彼
らを断ち滅ぼすのだと宣言する。けれども、
モーセが地にひれ伏しながら「思い直してく
ださい」とりなした結果、主が思い直す
という出来事がありました（出エジ 32 章 11～
14 節）。

ではエリヤはどうであったか。エリヤがホ
レブの山に登ったとき、主はエリヤにこう尋
ねました。「エリヤよ。ここで何をしている
のか。」エリヤは、バアルの預言者たちとの
戦いのことを説明した後でこう言います。
「彼らは私のいのちを取ろうと狙ってい
ます。」

モーセの時、ホレブの山で神のさばきが示
され、モーセが神とイスラエルの間に立って
とりなしました。ホレブの山で、エリアは自
分はいのちをねらわれていると告白しまし
た。

これがホレブの山でモーセとエリヤのみ
に起きたことでした。これとイエスがつな
がっています。モーセのことから、こう言い
換えることができるでしょう。私たちは金
の子牛を造って踊って騒いでいるような罪人
で、神に滅ぼされるべき者でした。けれども、
主イエスは地にひれ伏し、父なる神に「思い
直してください」とりなして下さった。そ
ういうことになります。

そしてエリヤのことから何が言えるので
しょうか。主が私たちのためにとりなして
下さった結果、主は祭司長、律法学者たちか
らのいのちをねらわれました。最期は十字架に
つるされ、主の御怒りのさばきを受けられた。
そのような結びつきが見えてきます。

どうですか。主はピクニックをしに山に
登ったのではなかったことがわかるでしょ
う。山に登ることで、三人の弟子たちの前で
事前に十字架の予行演習をおこなっている。
私にはそう思えてなりません。

人々は、高いところには必ず幸せがあると
信じています。そのために一生懸命高いと
ころ目指してがんばっています。けれども、山
の頂にあつたのはなんでしょう。期待して
いた地位も名誉、富はありましたか。ある人
は手に入れたかもしれない。でも本当の幸
せを手に入れたのでしょうか。

主が山の上で示して下さったのは、この
世の富ではありませんでした。山の上には、
十字架につるされ、むごたらしく傷つきな
がら、私たちのためにとりなして下さって
いる主のお姿だけありました。実は、この方
の中にこそ私たちの本当の幸があったので
す。

今日はいつもより少しばかり高いところ
に来ています。私たちの目にはすばらしい風
景が目に入ります。けれども、エルサレムで
最期を遂げて下さったイエスのお姿を霊
の目で仰ぎ見たいと願います。